

福岡市議会議長賞

「ごみの処分と税」

福岡市立姪浜中学校3年

延命 哲行

今年の夏の自由研究、僕は、「海洋ごみはどこからやってくるのか」をテーマに取り組んだ。きっかけは自宅近くの室見川にペットボトルなど無数のごみが浮かんでいるのを偶然見かけてしまったことだ。その光景が悲しく、そしてそれを拾うことが出来ない自分が虚しく思えた。そこで、潮が引いた間に室見川に降り、ごみを集めて調査を行った。

岩の上には、竹林から流れ出た竹や流木、ペットボトルや缶、瓶、食品トレー、レジ袋など様々なごみが散らかっていた。九州北部豪雨の被害で竹林から流れ込んだ流木もあれば、釣り人や海遊びを楽しんだ人、道路沿いで生活する我々の故意によるポイ捨てというより不注意が重なった結果、川に流れこんだ生活用品がごみとなったと結論づけた。

海洋ごみを一時間かけて拾い集めた結果、ゴミ袋 70L 一袋、20L 二袋がいっぱいになり、僕はびしょり汗をかいた。

自由研究のまとめが終わり、そのごみを処分することになった時、それにはお金がかかるということにふと気が付いた。同時に、そのお金は拾い集めた僕が負担しなければいけない、ということにも。

ごみの処理は各自治体が運営しており、福岡市では燃えるごみ・燃えないごみの45L袋は十枚450円で販売されており、一枚45円である。空き瓶・ペットボトル用45L袋は22円である。僕は燃えるごみ二袋、燃えないごみ一袋、ペットボトル用一袋の費用を負担することになった。

しかしながら、45L袋いっぱいのごみの処分が45円で出来るのか。いや出来るわけがない。そう、そこには税が使われている。

そこで福岡市によるごみ処理について調べてみた。福岡市ではごみ処理や清掃工場など生活環境の整備に要する経費として、年間317億円の税金が使われていた。317億円とはいえ総額のたった3.8%のようだ。

家庭や企業から出されたごみの量は平成28年度の一年間でなんと58万7567トン、ヤフオクドーム約二杯分であった。福岡市民一人当たり約378Kgで、スーパーで売られている米10Kgなら三十八袋分である。

海洋ごみのうち、流木などを除いて一番多かったのはペットボトル四十五本であった。空き缶、空き瓶といった飲み物が入っていた容器も沢山集まった。この容器を燃えるごみではなくリサイクルするのも自治体が税金を使って行っている。どんなに市民一丸となってごみの排出量を減らす努力をしても、やはりごみは出てしまう。ごみを適切に処分するために税金は使われている。

きれいな海と町を守るために僕が今出来ること、それはごみを減らす心がけと、排出されるごみが適切に処理されるようごみの処分に気を配ること。大切な税金がなるべくごみの処理につかわなくて済むように、ごみを減らす行動を行いたい。